

# 研修会報告

## 2018年度 滋賀支部地域専門職活動交流会 (第3回支部主催資格更新研修会を兼ねる)

10月14日(日)は、団士郎先生(仕事場D.A.N・立命館大学客員教授)をお招きし、地域専門職活動交流会の6時間コース「家族療法ワークショップ」を能登川コミュニティーセンター(学習室1~4)にて開催しました。

今回は、30名定員の事前申し込みとしたため、少人数制の講義と実習を通じて、じっくりと学びあうことができました。京都、東海支部の会員の参加もあり、団先生の研修会に期待が大きかったこともうかがわれ、大変貴重な研修となりました。



対人援助の仕事においては、原因を見つけて治療するという医療モデルでは限界があること、個人の症状や問題の解決のみが目的ではなく、治らない障害も病気もあるのが当たり前であり、「理解すること」こそが最大の援助であること、心理療法の理論にはブームがあっても、その基本は変わらないということ、また、家族の構造的理解については、「境界」「サブシステム」「パワー」という概念で説明を受け、社会的存在としての家族を見立てる目を持つこと等、援助職としての基本から家族理解の詳細まで、色濃い内容の講義となりました。さらに、ジェノグラムインタビューを用い、事例や、ワークを通じて学び合いました。

もうひとつのご専門である漫画を使っでの説明もわかりやすく、また、当日いただいた冊子「木陰の物語」※に感銘を受けた会員も多いと思います。参加者の感想には、「単なる知識ではなく、対人援助職としてのあり方をしっかり伝えてもらった」、「家族療法の奥深さを再認識した」、「個だけではなく家族丸ごとの理解や援助のために有意義な新しいアプローチを知ることができた」、「今すぐに使えるジェノグラムインタビューを通じて、家族の構造を見立てる視野を広げることができた」等があげられていました。

本来であれば、継続的に学び続ける必要のある内容ですので、興味のある方は、ぜひ、団先生が各地で開催されている勉強会に参加されることをお勧めいたします。

※<https://ja-jp.facebook.com/kokagenomonogatari/>